



豊 中 市 教 育 セ ン タ ー

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

T E L 0 6 - 6 8 4 4 - 5 2 9 0

F A X 0 6 - 6 8 4 0 - 8 1 2 7

平成 23 年 (2011 年) 9 月 30 日 第 51 号

『K点を越えて ～指導をとおして気づいたこと～』

8月31日(水)、大阪府立淀川工科高等学校名誉教諭・吹奏楽部顧問の丸谷明夫先生を講師にお迎えして、夏期教職員研修会を実施しました。研修会の数日前におこなわれた関西吹奏楽コンクールで、通算33回目の全日本吹奏楽コンクール出場を見事決められました。(第十一中学校吹奏楽部も2年連続出場です。おめでとうございます。)



丸谷先生は淀工吹奏楽部を長年指導しておられますが、「指導していると思ったことはない。生徒とともに吹奏楽を楽しんでいる。」と、いつも自然に寄り添っておられる体験や、教職員が助け合っていくことの大切さについて、温かい語り口でご講演いただきました。

演題の『K点を越えて』は、コンクール曲です。淀工に入学して、初めて楽器を手にとった生徒たちが、命がけといっても過言ではない強い思いで、普門館で演奏した思い出深い曲だそうです。

「K点(限界)を越えるために、一生懸命努力している仲間や同僚がいる。ときには、くじけそうになったり、つらい思いをしたりすることがある。周りにいる人は仲間を応援する、支える気持ちを

大切にしてほしい。」というメッセージを投げかけられました。

新学期、熱中症にハラハラしながら運動会の練習をしている学校もあるでしょう。運動は苦手でも団体演技、応援、応援旗などで力を発揮する子どもがいます。小さな力が合わさった時に大きな力になることを、子どもたちには体感してほしいです。行事に取り組むと、つらい思いをすることもありますが、でも衝突から、互いに支え合い応援する集団へと変わっていきます。そのとき、私たちはK点(限界)を越える瞬間に出会えると思います。

(研究・研修グループ 田中)



夏の研修特集！

52研修！ 1570名！



教育センターではこの夏、52の研修を実施し、延べ1570名の参加がありました。授業づくりや子ども理解、学校運営等さまざまなヒントを得たとの声が聞かれました。感想の一部をご紹介します。

授業づくりのヒントを得た！

算数 小学校と中学校の算数的（数学的）活動はつながっているということが改めてわかった。（わかっているもなかなか説明する子がいない中で）表現力を活かせる授業について、これから考えていけたらなと感じた。〈小・1～5年目〉

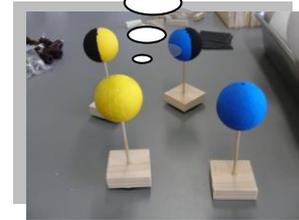
音楽 学級集団づくりは日々考えて実践しているつもりでしたが、「音楽」でつなぐことができると改めて感じました。〈小・6～10年目〉

社会 社会の授業づくりを具体的に教えていただいて、とてもわかりやすかったです。教科の目的、授業展開、評価まで一体になっていたのので、2学期すぐに試してみたいと思いました。〈小・11～20年目〉

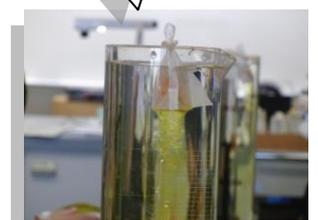
中学校外国語 あっという間の時間で、もっと先生のお話を聞きたいと思うくらいでした。現在中学2年生を指導していますが、生徒の興味、関心が英語に向かず悩んでいました。今日「+1」というご提案をいただいて気持ちが楽になりました。〈中・1～5年目〉

体育 マットの授業は今まで一人ひとりを個別に指導していましたが、子ども同士で支え合いながら学習する今日のやり方はとても参考になりました。〈小・1～5年目〉

月の模型、手軽に作れた！



物の溶け方がはっきり見えて、びっくりした！



理科

学級集団づくり 今日はゲームやエクササイズのみを知ることができるプログラムと思って来たが、様々な場面で子どもがどのような気持ちになるのかや、その時の接し方を知ることができてとてもよかった。〈小・1～5年目〉 今の子ども達の傾向（失敗を恐れる、人の目を気にする）が、自分の感じていることと一致していたので、そんな子どもたちの心を開いてやるには「安心して自分が出せるクラス」を作っていくことだと再確認しました。〈小・21年目〉



子ども理解のヒントを得た！

児童虐待について 事例が具体的に何種類もあり、様々なケースの虐待があるということが理解できた。子どもがどう感じているかでケースも

変わり、難しくなることも理解でき、対処法もわかった。〈小・11～20年目〉

保護者対応について 「大切な一言」が大事だと思いました。謝ってばかりではなく、保護者を安心、納得させられるような言葉を考えようと思いました。〈小・1～5年目〉 保護者対応について、個人で対応するのではなく、学校全体で受け止め、一緒に対応する大切さを改めて感じました。またロールプレイすることによって、保護者の思い、教師の聞く姿勢の大切さを感じました。

〈小・11～20年目〉

学校運営について 実践と理論の両方を学べてよかったです。裁量権拡大で自立した学校づくりとともに個々人の自立した活動やマネジメント力が問われていると思います。いかに自分に引き寄せて考えていけるか、難しいですがやっていきたいです。〈小・21年目以上〉 学校を運営していくためにはいろいろな視点での検証やアイデアが必要であり、学校が地域に根ざす「何か」をみつけ出さなくてはならないと感じました。

〈小・6～10年目〉

「確かな学びを豊かな学びへ！」

教育センターをぜひご活用ください！

10月からも教育センターではさまざまな研修を実施します。講師や内容については、月ごとに配付する研修予定表を参考にしてください。

『「活用力の育成をめざす算数の授業づくり」について』（確かな学び推進事業）

8月23日（火）、研究協力員の先生方を中心に、福井県福井市立麻生津小学校で「確かな学び推進事業」を実施しました。会場では、福井市の教育の概要や、コアティーチャー事業（児童生徒の読解力や活用力の向上を図るため、授業づくりや授業研究の核となる教員の育成を行う事業）について、また「活用力の育成をめざす算数の授業づくり」について、麻生津小の6年間の実践を交えたお話をうかがい、さまざまなヒントを得ることができました。参加した先生方からは「学校が一つになって算数の研究から学校を変えた取り組みを見て、こんなこ

とができるのだと感動しました。子どもを育てるために



は教職員が同じ方向を向いていなければならないと感じました。」「麻生津小学校の先生方が一致団結するだけでなく、他校や先輩方といった周りの意見も受け入れながら一貫して何年も取り組みを進めていく、その姿勢に感動しました。」

「算数の授業改善を通して学校全体の改善（見直し）ができたと聞き、教職員が一致して取り組んだ成果だと強く感じた。」等の声がありました。

気になる子どもへの支援のヒントより

忘れ物が多い子 ー子ども編ー

2 学期が始まりこれから運動会や校外学習などの行事が増えてくることと思います。持ち物がいつもと違う行事のときは、準備などで戸惑う子どもたちもいるのではないのでしょうか。担任の先生は普段から忘れ物が多い B さんのことが特に心配になります。どのようなことに気をつけて関わっていけばいいでしょう。

まず B さんの様子をよく見てみましょう。

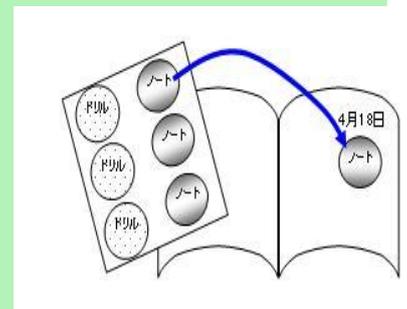
- * 先生の話聞いていますか？
 - * 連絡帳は書けていますか？
 - * 学習の理解・意欲はどうでしょうか？
 - * 家で準備する習慣はできていますか？
- など・・・



B さんはぼんやりしがちで話を聞いていないことが多く、活動にもついていけないことがあります。連絡帳を書くことにも時間がかかり、書いても忘れて帰ってしまうことがあるようです。また忘れ物が多くてよく叱られる B さんは、学習への意欲も少なくなってしまうようです。

支援の手だてとして以下のことが考えられます。

- ① 話すときは声をかけ注目させる。座席の位置を前や、周りの刺激が入りにくい場所にする。集中しやすい環境をつくる。
- ② 指示内容を短くする。
- ③ 連絡帳の内容をいつでも確認できるように、黒板や掲示板など決められた場所を書いておく。
- ④ 書くこと自体が苦手な場合は、シールなどを使って取り組みやすい方法を取り入れる。
- ⑤ 忘れ物をしなかった時に、できたことをしっかり認める（例：スタンプを押すなど）。



準備する習慣がついているかなど、家での様子を見ていくことも必要です。

次号では保護者と協力して支援する方法について取りあげます。 (岡本)

参考：『気になる子どもへの支援のヒントー相談事例集ー』 p 26, 27, 44, 45

大阪府教育研究所連盟 教育相談部会編 豊中市教育センター2009年3月発行